

# とよなか国際交流センターおしらせ

**VOL.91** とよなか国際交流センター広報誌 2016年11月



「ハロウィンをイメージして絵を描きました！」  
石井由香子(大阪府立池田高校2年生)

## とよなか国際交流センターからのおしらせピックアップ

問合・申込 とよなか国際交流協会(指定管理者) ☎06-6843-4343 (水曜、年末年始を除く毎日、9:00~20:00)

**11/24(木) 10:00~13:00**

世界を食べよう

～モロッコ家庭料理作りと交流

モロッコ出身のアシュラフさんと料理をつくって交流する。(メニュー:クスクス、人参サラダ、オレンジのデザート、レモンジュース※予定)

定員:12人、先着順(要申込)

参加費:1500円

申込:11月19日(土)

までに来館、電話受付



**11/26(土) 10:00~12:00**

平和と共存のための おまつり地球一周クラブ  
～ルーマニアの子どもたち  
ルーマニアの文化について学び、遊びやお菓子作りを体験する。

対象:小学生(保護者同伴可)

定員:15人、先着順(要申込)

参加費:200円



(※参加費は記載がないものは無料、場所は、記載がないものはすべてとよなか国際交流センターです)

**11/26(土) 17:00~19:30**

国流シネマ・カフェ

「今を生きる」(主演:ロビン・ウィリアムズ)の鑑賞と交流

定員:20人、先着順

参加費は無料

(飲み物は有料)



# 豊中市制80周年記念連続セミナー:市民と共に、とよなか国際交流センターの過去・現在・未来を考えました

豊中市制80周年記念連続セミナーとして、「新たな多文化共生社会の地平をめざして～とよなか国際交流センターの過去・現在・未来～」を開催しました。

まず、10月8日（土）に「とよなか国際交流協会と私～協会の役割と可能性について考える」と題して、雨森孝悦さん（日本福祉大学教授、とよなか国際交流協会初代事務局長）にご講演いただきました。すでに活動していた市民グループとの間にネットワークを作りながら数々の事業を実施したこと、当時主流だった

海外の姉妹都市との交流ではなく、市民と力を合わせて多文化共生の地域づくりの取り組みを進めたこと、市民とともに阪神・淡路大震災時に外国人支援に当たったことなどが語られました。市民と地域の多文化共生に取り組むセンター事業の原型は創成期に生まれたものと確認されました。

続いて、10月20日（木）に「外国人の”非対称性”への気づき～転換期から見てきたものとこれからの”国流”」と題して榎井縁さん（大阪大学特任教授、元協会事務局長、協会理事）、金相文（協会常務理事、前事務局長）、山野上隆史（現協会事務局長）の講演を行いました。豊中市の財政非常事態宣言（1999年）を受け、事業の在り方が問われる中、事業体系や基本理念、事業評価などのシステムが整理され、さらに外国人相談（DV相談）、にほんご事業、おやこでにほんご、子ども母語、サンプルイスなどの事業が周縁化する「女性とこ

ども」を軸に組み立てられていき、今の事業体系へとつながってきたことが説明されました。また、それらの事業体系をいかに地域に根ざしたものにすか、すでに民生委員や地域福祉ネットワークとのつながりが生まれつつあり、今後もさらに地域とのつながりを広く深くしていくことが重要だと語られました。

一緒に過去を振り返り、未来を考える、今後もこういった機会を設けていきたいと思えます。



雨森孝悦さん



左より:山野上、金、榎井さん

## 各地より

## 「少しだけ北の国から～ふくしま@辻より」

協会事業（哲学カフェ、プロジェクト“さんかふえ”等）に参加していた辻明典さんが、2013年度より故郷である福島県南相馬市に戻り、教員をしています。辻さんからの福島からの便りをどうぞ。

### 「〈かたる〉ことを考えてみる」

みなさんの住んでいる土地には、民話は残っているでしょうか？ 民話を語ってくれる人はいるでしょうか。恥ずかしながら、私も最近になって初めて知った物語がたくさんありました。調べてみると、いま私が住んでいる地域には、ため池にすんでいる大蛇が大雨を降らせた話や、里を荒らした熊の話などが残っていたのです。

例えば一つの教訓を、おもしろおかしく、ときには不思議な、こわい話につつんで〈かたってみる〉。

〈語る〉と〈騙る〉は、語源が同じであるともいわれています。

民話というものは、もしかしたら本当にあった話を、別の話に作り直して、騙ってみせることなのかもしれません。「ため池の水をぬいたら、大蛇が怒って大雨を降らせた」という話は、不作に備えて水は大事

にしなければならないという教訓を、きつと物語に仕立て上げたのでしょう。

〈騙る〉ことは、嘘いつわりによって、誰かをおとしいれるたぐいの行為ばかりではないのかもしれませんが。辛いこと、悲しいこと、苦しいことなども、「昔々あるところに…」のフレーズではじまる物語の登場人物のように、茶化したり、ユーモアにつつんだりしながら〈騙ってみせる〉ことで、物事の本質をディープに〈語る〉ことができるかもしれません。

現在も、東北地方の太平洋側の地域では、幽霊と出会ったという話がいくつか残されています。夜道を歩いていると、確かに人の気配がしたのだけれど、まわりを見渡しても誰もいなかった話。運転をしていた車の後部座席に、夜道を歩いていた人を乗せて、確かに会話もしたはずなのだけれど、気付いたらいつの間にかその人がいなくなっていた話。そういえばあの人は、夏

なのになぜかコートを着ていたような…。

こういった話は、怪談として片付けられてしまいやすいのかもしれませんが、ですが、「果たして本当にこれは、こわい話なのかな？」と思うこともあります。

いたずらにこわがられたら、亡くなった方々も迷惑だと思うのです。本当に、誰かをおどろかせるために現れたのでしょうか。よく考えてみると、幽霊たちも人恋しいのではないのでしょうか。会ってくれそうな人のそばにしか、実は現れないのではないのでしょうか。そんな気もするのです。

東北地方の太平洋側にあらわれた幽霊の話。これもいつか民話として、語られていくのでしょうか。

昨年度末の在留外国人数は223万人と、統計を取り始めた1959年以降最多となりました（法務省発表）。なかでも在日ベトナム人の数は、約147,000人と前年度統計に比べて最も多い47.2%の増加となりました。国籍別で言えば、中国、韓国、フィリピン、ブラジルに次いで5番目に多くなっています。日本への留学や仕事を希望する人の増加や、日本企業の進出などが増加の背景の一因だとみられています。豊中では、約230人のベトナム籍の人々が暮らしており（2016年8月現在）、その数は増加傾向にあります。

豊中ではこの4月から、市内在住のベトナム人市民が中心となり『豊中ベトナム人協会TVA (Toyonaka Vietnamese Association)』が発足しました。豊中市内の各施設やとよなか国際交流センターを拠点として、ベトナム人同士の交流・アクティビティの実施や、地域の人たちへのベトナムの文化・情報の発信などを目的としています。現在のところ、ベトナム人同士の交流を兼ねたピクニックや卓球クラブ、地域の方との国際交流などを実施しています。キャッチフレーズは、「会って笑う〜一緒に活動しませんか」。活動の輪がこれからどんどん広がっていくことを願っています。

朝夕寒さを感じるようになり、秋も深まってきました。秋といえば紅葉にサンマ、読書に多文化フェスティバル…。そう、今年も多文化フェスティバルの季節がやってきました！

毎年、外国にルーツを持ったり外国で生活をしたことがある子どもやおとな、そんな人たちに関わっている先生たちが楽しめるイベント、それが多文化フェスティバル。例年趣向を凝らした出し物で大盛況の多文化フェスティバルが、今年会場をとよなか国際センターに変えパワーアップ！新しい試みも盛りだくさん！ドキドキワクワクする体験型ブースや美味しい多文化お昼ごはん、会場が一つになれるワークショップも計画進行中！グランドフィナーレにはみんなの夢と希望が空を舞う？！この秋、豊中で最も熱いスポットがそこにある。

日時：11月19日（土）10：30～14：30

場所：とよなか国際交流センター

入場無料、子どもはお昼ごはん無料（おとな300円）



なんぢゃ・カンチャ・言わせてもらえば（第91回）

## 「語り継ぐオーラル・ヒストリー」

皇甫康子（ふぁんぼ・かんぢゃ）

今まで、たくさんの女性たちの聞き取りをすることができました。被差別部落の高齢の女性たちの話を、はじめて聞いたときの衝撃は今でも忘れられません。極貧の中での食事は働き手が優先され、いつもお腹をすかせていたことや、お弁当を持たせてもらえない学校での昼食の時間が辛かったことなど、親を恨んだ日々と共に、ごくたまにご馳走にありつけた幸せな思い出も聞かせてもらいました。彼女たちにとって「部落差別」という言葉を知らなかったときは、親きょうだい最初の敵だったと言います。

「ひょうご部落解放」で連載した（1999年～2001年）「『女から女へ』解放運動の中の女性」で、在日朝鮮人や被差別部落の女性たち、10人の半生を聞き取りました。語ることのなかった個人の歴史を歴史的事件にはめて検証し、参加者それぞれの問題意識から質問や意見交流をするという会だったのですが、文献にはない貴重な話や、本人も気づかなかった事実にもでくわし、毎回、まとめるのが楽しく勇気が出る内容ばかりでした。

私より10年先輩の女性は、68年に兵庫県立湊川高校での「育友会費不正使用」糾弾闘争に参加していたときの話をしてくれました。彼女は「部落差別」は言えるけれど、「女性差別」という言葉が腑に落ちないと言っていた人です。闘争のときに朝鮮

人や中国人の学友とも出会い、差別に苦しめられているのは自分たちだけではないことに気づきます。結局、学業半ばで嫁ぎ先に気を遣い断念するのですが、それが女性差別ではないのかという、私たちの問いかけに、これが女性差別だったのかと絶句します。

私の友人が高校の就職指導の先生にも朝鮮人は無理だと相手にされず、地元の女子は誰も行こうとしない劣悪な労働条件の会社に就職したときの話を聞き、国籍条項には引っかからないが、就職してからの差別がひどく、仕事が続けられなかった人もたくさんいるという話でもしました。

自分たちは学校に行かせてもらえた世代だが、多くの女性たちが男きょうだいの学費を残すために進学を諦め、働いたという話もよく聞きます。被差別の立場で、女性という属性は「生まれて良かった」と無条件に喜べないのです。だからこそ、自分と同じ苦勞をするのなら、子どもを産みたくないという気持ちになったり、結婚差別に遭うくらいなら一人で仕事を持って生きたいと思ったりするのは当然です。しかし、就職できなかつたり、仕事が続けられなくなつたりという厳しい現実が立ちはだかっています。

苦境に立ったとき、「なるようになるさ」と笑い飛ばせる強さは一世代の女性たちの生きる術でした。祖母は高校の進路相談

で朝鮮人は大学にいても無駄といわれ落ち込む私に、「ご飯たべよう。お腹が空いていたらアカン」とたどたどしい日本語で励ましてくれました。美味しいものを食べると、気持ちが楽になり、良い知恵も浮かびます。でも、とっさの知恵は何もないところからは生まれません。知識という日頃の蓄えがあってこそ、搾り出せます。日本語の読み書きができなかった祖母たちは、生き抜くための知識を出会いや体験、記憶によって得てきたにちがいません。

その後、聞き取りは朝鮮人を親に持つアイヌの女性たち、外国から日本に来た女性や、外国人男性と結婚した日本人女性にも広げることができました。私にとっては、得難い体験でした。

多様なこどもたちが外国からきた親たちの「オーラル・ヒストリー」を聞くためには、言語の問題、自分のアイデンティティーを受け入れられるかどうかという問題、そのアイデンティティーが多数者からどう見られているかという問題など、超えなくてはいけないハードルがたくさんあります。だからこそ、親は子に胸を張って語ってほしいし、子は親を尊敬してほしい。忘れ去られる歴史を語り継ぎ、こんな人たちがいたということを残していきたいと思えます。

# とよなか国際交流センターの事業について

## 定例事業(以下すべて参加費は無料です)

### 国際交流に関する情報の収集および提供事業

センター内の「ふれあい交流サロン」にて、子ども、おとな向けの書籍をお借りいただけます(多言語絵本もあります)。また、様々な媒体で定期的に日本語、多言語で情報発信を行っています。

### 国際理解推進事業

子ども、おとなを対象とした多文化共生・国際理解の勉強会を随時行っています。「おまつり地球一周クラブ」「市民セミナー」「世界を食べよう」「多文化・多言語セミナー」等

### 在住外国人に対する支援事業

「子ども母語」 第2・4日曜日10:00~12:00

・母語学習(中国語・スペイン語・ポルトガル語・タイ語)を通じて仲間づくり、居場所づくりをしています。幼児・小学生・中学生・高校生が参加しています。スタッフも外国にルーツをもつ学生です。

「学習支援サンプレイス」日曜日13:00~15:00※第1日曜除く

・日本語と学習支援の活動を通じて子どもたちの居場所づくりをしています。小学生・中学生・高校生が参加しています。ボランティアは大学生で、外国にルーツをもつ大学生ボランティアも多数参加しています。

「多文化保育にこここ」 木曜日13:30~15:30、金曜日10:30~12:00

・外国にルーツを持つ就学前の子どもたちが、さまざまな人と出会い、社会性を身につけるばづくりをしています。他…

### 在住外国人に対する相談事業

夫婦関係DV、在留資格、行政手続き、医療、労働、教育、子育て、人間関係等、何でも相談できます。面談でも、電話でもOK。秘密厳守!

毎週金曜日11:00~16:00 (電話06-6843-4343)

対応言語:フィリピン語・タイ語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語・インドネシア語・ベトナム語・英語・ネパール語・ポルトガル語・日本語

### 国際交流活動への住民の参加促進事業

留学生ホストファミリー事業ほか、日本語交流活動にも数多くの市民がボランティアとして参加しています。

### 日本語交流活動

「もっともっとつかえるにほんご」月曜日10:00~12:00  
 「とよなかにほんご・木ひる」木曜日13:30~15:30(保育活動あり)  
 「とよなかにほんご・金あさ」金曜日10:30~12:00(保育活動あり)  
 「にちようかちやがちやだん」日曜日10:00~12:00※第1日曜除く

地域の外国人とボランティアが会い、日本語交流を通じて生活に必要な日本語を学び、豊かな人間関係を築く場をつくっています。

「おかまち・おやこでにほんご」(場所:岡町図書館)  
 「しょうない・おやこでにほんご」(場所:庄内図書館)  
 「せんり・おやこでにほんご」(場所:千里図書館)  
 火曜日10:00~12:00

乳幼児を抱えて家にこもりがちな外国人女性が子どもを連れて安心して集い、交流・情報交換ができるママづくりの場を図書館の協力のもとで実施しています。運営ボランティアも子育て中の女性です。

…その他、市民参加型のイベントや人権や多文化共生に関する講座、対話の場なども実施しています。また、ボランティアについてのお問合せや国際交流団体の運営相談にも随時対応しております。お気軽にお問合せ下さい。

## 施設管理に関する業務:貸室について

★駅前で便利!★ 会議やイベントにぜひご利用下さい。

センター貸室使用申込み…受付時間:開館日の午前9時から午後8時まで  
 会議室、料理室、音楽・健康づくりルーム、和室、プレイルーム、ギャラリーを初めてご使用になる場合は、事前の登録が必要になりますので、お問合せ下さい。

とよなか国際交流センター貸室使用料金表

部屋名	広さ (m <sup>2</sup> )	定員 (人)	料金 (円)				設備
			午前 9:00~12:00	午後 13:00~17:00	夜間 18:00~21:30	全日 9:00~21:30	
会議室 1	41	18	520	720	640	1,880	ホワイトボード(小)
			2,600	3,600	3,200	9,400	
会議室 2A	34	21	480	600	520	1,600	
			2,400	3,000	2,600	8,000	
会議室 2B	65	48	840	1,120	1,000	2,960	
			4,200	5,600	5,000	14,800	
会議室 2C	33	21	440	560	520	1,520	ホワイトボード(2ABC2BCを一室として使用する場合は不可)
			2,200	2,800	2,600	7,600	
会議室 3	55	18	520	720	640	1,880	ホワイトボード(大)
			2,600	3,600	3,200	9,400	
会議室 4	63	30	840	1,080	960	2,880	ホワイトボード(小)、流し台
			4,200	5,400	4,800	14,400	
会議室 5	27	12	360	480	400	1,240	ホワイトボード(大)
			1,800	2,400	2,000	6,200	
和室	38	18	480	680	560	1,720	10畳
			2,400	3,400	2,800	8,600	
ギャラリー	18	-	240	320	280	840	壁画ガラスケース、ピクチャーレール
			1,200	1,600	1,400	4,200	
プレイルーム 1	57	20	880	1,160	1,040	3,080	子ども用トイレ
			4,400	5,800	5,200	15,400	
プレイルーム 2A	43	15	680	880	760	2,320	子ども用トイレ、畳(一部)
			3,400	4,400	3,800	11,600	
プレイルーム 2B	52	18	800	1,040	920	2,760	子ども用トイレ
			4,000	5,200	4,600	13,800	
音楽・健康づくりルーム	113	40	1,480	2,000	1,760	5,240	アンプ/マイク/必要な機材の費用は各使用者負担、ビデオ、カセット、CD、MD、マイク、壁面鏡、更衣室(ロッカー、洗面台)
			7,400	10,000	8,800	26,200	
料理室	90	30	9:00~13:00	13:30~17:30	18:00~21:30	9:00~21:30	調理台6台のうち昇降式調理台2台、準備室(ロッカー)、洗面台、ホワイトボード)
			1,720	1,720	1,560	5,000	
			8,600	8,600	7,800	25,000	

備考 1. 2区分にわたって継続して使用する時の使用料は、それぞれの区分の料金の合計額とします  
 2. 料理室の使用区分のみ、料理室枠内の記載時間とします  
 3. 上段:国際交流目的で使用する場合(内容審査あり)、下段:その他の活動で使用する場合の料金  
 4. 使用時間には、準備、後片付けの時間を含まず(時間厳守)  
 5. 鍵は時間の5分前からお渡しできます。その際「使用承認書兼領収証」を必ずご提示ください

## 国際交流の活動を応援します!

### 登録グループ制度についてのご案内

とよなか国際交流センターでは「登録グループ制度」を設置し、国際交流の活動に組織的かつ継続的に取り組む方々の自主的な活動推進のための支援を行っています。

#### 登録グループへの支援内容(一部)

- ・国際交流目的で貸室を毎月2コマ(午前・午後・夜間のいずれか1室につき1コマ)まで無料で使用できます。
- ・センター内の掲示板で情報提供できます
- ・印刷機が無料で使用できます(紙は要持ち込み)

・センター内のロッカーが無料で利用できます。…など

その他、登録グループになるための要件、登録後の役割等については「登録グループ制度要項」に詳細に記載しています。豊中市のウェブサイトからもダウンロードできますので、ご関心のある方はご覧下さい。https://www.city.toyonaka.osaka.jp/jinken\_gakushu/kokusai/tourouguru-pu.html

もしくは、当センターの受付でも入手可能ですので、お問合せ下さい。

### 「登録グループ活動紹介」の冊子をセンター受付にて無料配布中です



～地域や学校での国際理解教育にお役立て下さい!～

### 各国の民族衣装などを貸出します!

豊中市の公的教育機関は貸出料無料! 詳細はHPもしくはお電話にてお問合せ下さい。

【お問合せ】 TEL 06-6843-4343 FAX 06-6843-4375

とよなか国際交流協会(指定管理者) Facebook! ほぼ毎日更新中! 「公益財団法人とよなか国際交流協会」で検索!

開館時間: 午前9時~午後9時30分 / 業務受付時間: 午前9時~午後8時 休館日: 毎週水曜日、年末年始

アクセス: 阪急宝塚線「豊中」駅から徒歩1分(阪急梅田駅から急行で11分)

地下3階に有料駐車場有り(210台)、1階に有料駐輪場あり(自転車・バイク)

編集・発行 公益財団法人とよなか国際交流協会(とよなか国際交流センター指定管理者)

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1-1-601 とよなか国際交流センター

E-mail: atoms@a.zaq.jp http://www.a-atoms.info



●アクセス: 阪急宝塚線「豊中」駅から徒歩1分